



2024（令和 6）年度 事業計画書

2024（令和 6）年度事業計画の策定にあたって

本年元日に発生した令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々へ、深く哀悼の意を表し、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様、並びにそのご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災者救済、被災地復興支援にご尽力されている方々に深く敬意を表します。皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

昨年より新型コロナウイルス感染症に伴う行動の制限が緩和され、本年2月22日には日経平均株価がバブル期絶頂の1989年12月29日につけた終値としての史上最高額を更新しましたように、経済社会活動も回復しつつあります。しかしながら、今、わたしたちは、不安定な世界情勢や世界各地で発生する災害等、様々な国家の枠を超えた地球規模の課題に直面するとともに、社会の複雑性が増大し、多様化、流動化する先行きの予測が不可能な時代の中に在って、これらの課題に対峙していく力が必要になってきています。

樟蔭学園は、1917年の学園創立以来、「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」を建学の精神とし、今日に至るまで時代の変遷の中にあって、連綿と受け継がれてきました。設立時より、外国人による英語の授業を展開し、ガスや電気を利用した実習室や実験室を完備していたこと等、当時考えられていた「完全なる教養」を身につけた女性の育成がめざされていきました。今、先行き不透明なこの時代にこそ、幅広い教養と複雑化、多様化する社会の中で課題を発見し、これを解決していき、未来社会を設計していく力が求められていると考えます。

本学園は、百年の歴史を超えた後、2020年度には、樟（くすのき）のように内なる輝きを発する女性を育成する『樟蔭美』をブランドコアとして再定義し、長期ビジョン「Shoin Vision 2030」を掲げ、そのもとに「第Ⅲ期中長期計画（2020年度～2024年度）」を策定し、実行してきました。今、その中長期計画も終盤にさしかかり次の未来へとつないでいく段階となりました。今後も少子化が進む中、女子学園として、永続するために、学園の原点を忘れることなく、教育の質の向上のため教育改革を押し進め、時代と社会の変化を乗り越えるレジリエントな体質により転換していき、将来を見据えた意欲的なチャレンジをしてまいります。

2024年度の取り組みを本事業計画書にまとめましたので、何卒、取り組みにご理解を賜りまして、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

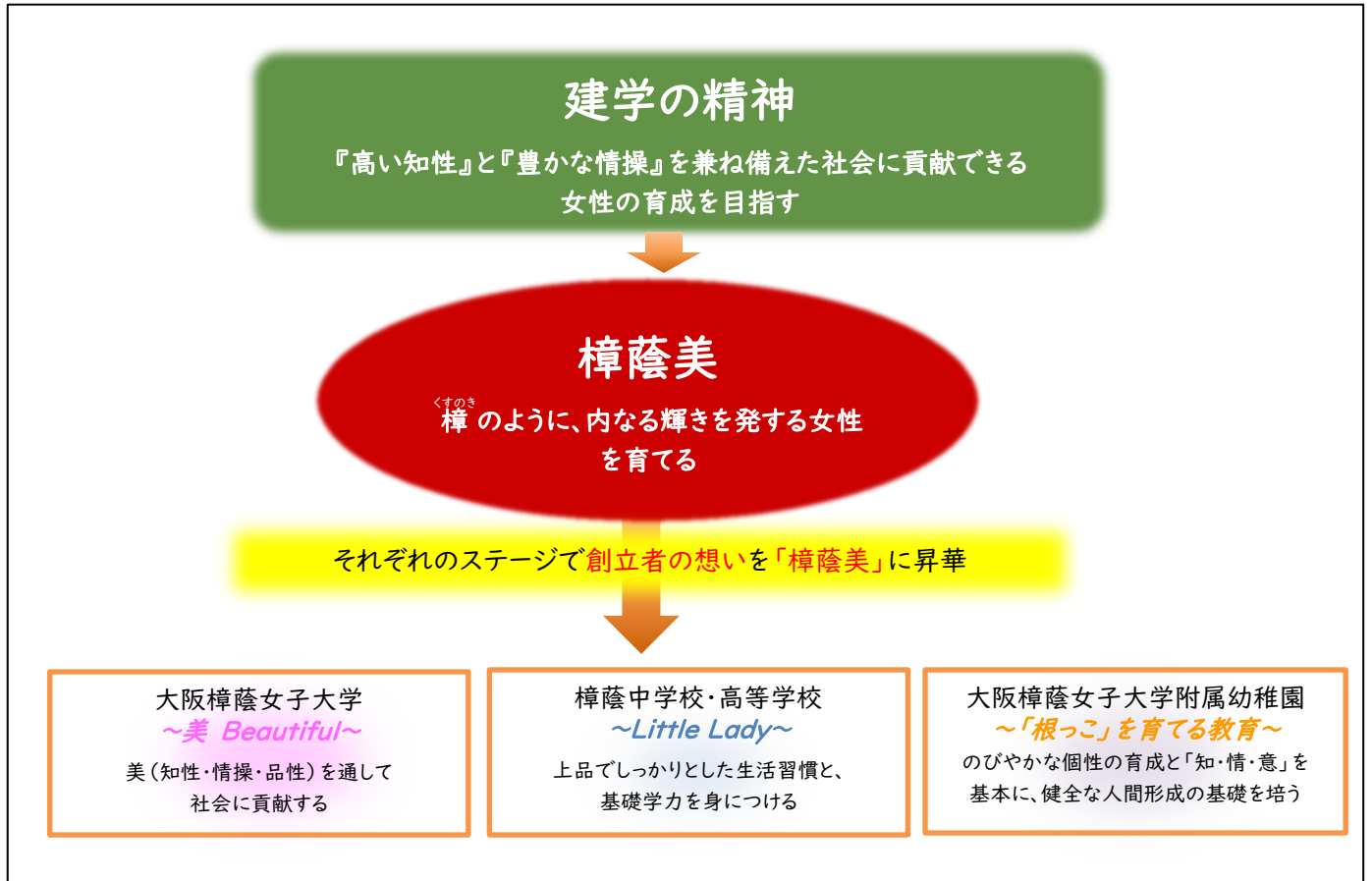
目次

2024（令和 6）年度事業計画の策定にあたって	1
学園及び設置校の将来像（長期ビジョン）と中期計画の位置付け	2
I 設置する学校・学部・学科等	3
II 設置学校及び学園の事業計画	
大学・大学院	4
高校・中学	7
附属幼稚園	9
学園	10

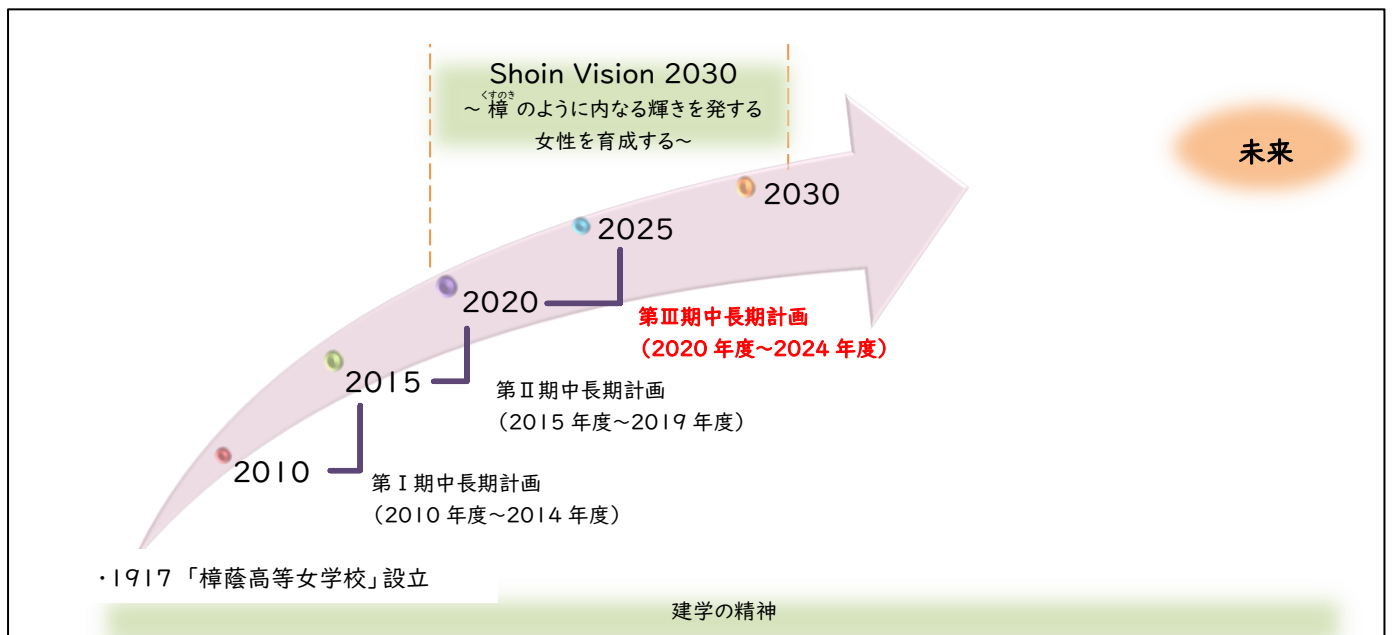
Shoin Vision 2030

学園及び設置校の将来像（長期ビジョン）

樟蔭学園が百有余年の歴史の中で育て上げてきたものの根幹は、学生生徒それぞれが内なるものとして培った女性としての芯、意思、またその強さであり、「樟蔭美」という価値観に集約されます。今後、建学の精神のもとに、「樟のように内なる輝きを発する女性を育てる」ことを通じて、社会の幸せのために力を発揮していける存在として在り続けます。



中期計画の位置付け



I 設置する学校・学部・学科等

(2024 年 4 月)

○大阪樟蔭女子大学

研究科・学部・学科	学位	入学定員	収容定員	開設年度
人間科学研究科(修士課程)				
臨床心理学専攻	修士(臨床心理学)	8	16	2004(H16)年 4 月
人間栄養学専攻	修士(人間栄養学)	8	16	2005(H17)年 4 月
化粧ファッション学専攻	修士(化粧ファッション学)	10	20	2013(H25)年 4 月
大学院計		26	52	
学芸学部				
国文学科	学士(国文学)	60	240	1949(S24)年 4 月
国際英語学科	学士(国際英語学)	40	160	2010(H22)年 4 月
心理学科	学士(心理学)	80	320	2015(H27)年 4 月
ライフプランニング学科	学士(ライフプランニング)	60	240	2007(H19)年 4 月
化粧ファッション学科※1	学士(被服学)	140	520	1949(S24)年 4 月
計		380	1,480	
児童教育学部※2				
児童教育学科※2	学士(児童教育学)	120	580	2009(H21)年 4 月
計		120	580	
健康栄養学部				
健康栄養学科	学士(健康栄養学)	160	640	2015(H27)年 4 月
計		160	640	
学部計		660	2,700	
大学計		686	2,752	

※1 2023 年度収容定員増加 ※2 2023 年度より収容定員削減

註) 名称変更を行っている学科の開設年度は、当初の学科の開設年度を記載しています。

開設年度の S は「昭和」、H は「平成」を表します。

○樟蔭高等学校

設置課程等	コース	募集定員	開設年度
全日制普通科	国際教養、総合、身体表現	280 (内部: 70) (外部: 210)	1948(S23)4 月

○樟蔭中学校

コース	募集定員	開設年度
国際教養、総合進学、身体表現	70	1947(S22)4 月

○大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

	募集定員	開設年度
3・2・1 年保育	3 歳児: 50 4 歳児・5 歳児: 若干名	1951(S26)4 月

Ⅱ 設置学校及び学園の事業計画

【大阪樟蔭女子大学・大学院】

樟蔭学園の『建学の精神』に則り、2030 年度に向けて策定したグランドデザイン「美（知性・情操・品性）を通して社会に貢献する～美 Beautiful～」の趣旨に沿ったビジョンの具体化を推進します。

大課題	基本施策	具体的施策	最終目標	2024年度事業計画	年数
使命・目的 の実践	グランドデザイン 2030と変化への対応	グランドデザインの浸透	建学の精神を踏まえ、グランドデザインが学内外に認知され、2030年に向けて実行されている	前年度の履行状況の検証 各種施策6つのビジョンに沿った取り組みの実行（トランスジェンダー女性受け入れ準備）	5/5年目
		時代の変化に対応した学部・学科改革	社会情勢・動向を考慮し、他大学にはない魅力を有し社会に求められる学部学科構成になっている	学部・学科構成の見直し、プランニング 収容定員の適正化検討 理数系学科設置の検討	5/5年目
	教育研究組織の革新 と充実	学芸学部の充実	充実した教養教育を実施するとともに、各学科の長所を活かして学部の一体感を醸成した教育が展開されている	学修者本位の教育体制への転換 新たにスタートしたカリキュラムの検証（早めに） 学部構成の見直し、プランニング 収容定員の適正化検討 理数系学科設置の検討	5/5年目
		児童教育学部の充実	保育士ならびに幼稚園、小学校、中学校の教育現場で活躍する人材を育成し、社会に輩出している	学修者本位の教育体制への転換 質保証の維持に向けたPDCAサイクルの実施 収容定員の適正化	5/5年目
学生の受け 入れ	安定した学生確保に 向けた入試制度・広報体制の整備	健康栄養学部の充実	管理栄養士・栄養士を中心に広く栄養・食・教育の分野で時代のニーズに対応して活躍する人材を育成し、社会に輩出している	学修者本位の教育体制への転換 人材育成体制の確立 PDCAサイクルの実施	5/5年目
		新入試制度への対応	2021年度新入試制度の検証・改善を踏まえ、2024年度入試への対応が問題なく終了している 定員660名に対して入学生を安定的に確保できるようになっている	改正新入試制度の検証・改善 オープンキャンパスの効果的コンテンツと運営促進 （2024年度新入試との連関の検証・見直し）	5/5年目
		安定した学生確保に向けた 広報体制の整備	広報体制や広報的な技術能力の見直しを進め、効率的、戦略的な広報を行い、オープンキャンパス等のイベントへの参加を促進することで安定した入学者数を確保することができている 高校等への訪問によるダイレクトな広報を効果的に行うよう工夫している（営業力を強化している）	「広報組織力」「関係構築力」の強化 「戦略構築力」の強化 「情報発信力」の強化 「情報収集力・分析力」の強化 「イベント誘導力」の強化 「危機管理能力」の醸成	5/5年目
	学修支援	組織横断的な教職員連携強化（教職協働）	入試関連行事・広報活動を通して、部署を超えての協業体制や情報が双方向で流れ共有する体制ができており、教職員の有機的な連携ができています	ネットワークエンジンの活性化・組織市民行動の成長 組織横断的な入試関連イベント企画等チームの組織化 組織横断的な職員（立候補）による高校訪問活動本格（通常）化	5/5年目
		ステークホルダーとの連携強化	心理的近距離にある受験生や高等学校に対して、教学あるいは財務的な諸制度やメリットを提供し、常に振り向いてもらえるようになっている	協定校への教学メリットの再訴求 新入試制度成果検証 新入試制度での魅力訴求 財務メリットの再設定 発信力の強化	5/5年目
		学修支援体制の充実	学修者本位の濃い学びが修得可能な学習環境が提供できるよう、不断にその支援体制の見直し、充実を図っている	学生の意見・要望も汲み上げた学修支援体制の見直しと計画的な充実 前年度の意見・要望を踏まえた計画の立案ならびに実行実現	5/5年目
学生のサ ポート	学修支援	特別な配慮を求める学生への学修支援策の提供	すべての教職員が、支援が必要な学生について理解し、所属学科と連携しており、支援が必要な学生が求める支援を受けることができている	支援に関する相談業務の充実（支援方法の検討を含む） 障がい理解に関する情報提供 対応困難事例への支援会議による介入 支援会議によるコーディネーター・学科間の連携の見直しと強化 教職員の障がい理解促進 「修学上の合理的配慮の提供に関する流れ」の現状に合わせた見直し	5/5年目
		キャリア教育の充実・強化	全学科1年次から4年次までのキャリア教育体制が整備されている	1年生秋期開講の「キャリア設計」の履修率アップに取り組み、2年生開講の「キャリア開発」に繋がるよう取り組む	5/5年目
		就職・進学支援体制の充実	学生が卒業までに自分の希望する進路を決定し、選択することができている	1年生秋期開講の「キャリア設計」の履修率アップに取り組みとともに、あるべき姿の範となる先輩との懇話会を実施する。 教員と連携し情報提供を充実する。	5/5年目
	キャリア支援	教職希望者に対する支援策の実施	教職支援センターの円滑な運営がなされ、教職を志す学生のニーズに応える支援を提供できている （エントリー数：毎年度400名以上） （利用者数：延べ360名以上） （教職志望学生の90％が利用）	教職支援センターの円滑な運営とその改善 教職志望学生に対する支援体制の円滑な運営と改善 教員採用試験の受験率の向上	5/5年目

大課題	基本施策	具体的施策	最終目標	2024年度事業計画	年数
教育課程の改善	学生生活支援	学生生活支援体制の充実	すべての学生が充実した学生生活を過ごすための支援を受けることができている	ワンストップサービスに向けた学生生活支援体制の検討 課外活動充実策の具体化 新たな学生生活支援の検討 「キャンパスの声」仕様の変更・設置場所の変更による活用	5/5年目
		特別な配慮を必要とする学生生活支援体制の充実	すべての教職員において、支援が必要な学生について理解が進み、学生に関わる各部署が連携しており、支援が必要な学生が求める支援を受けることができている	障害理解に関する情報提供 対応困難事例への支援会議による介入 支援会議による各部署連携の検証 教職員の障害理解推進体制の確立	5/5年目
	学修環境の整備	施設・設備の適切な管理と運営	教育目的達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用している	管理体制に基づく各種施設・設備の整備 施設・設備の有効な活用	5/5年目
		バリアフリー化を含む施設・設備の利便性向上	施設・設備の利便性（バリアフリーなど）に配慮している	教職員・学生からの要望や各種アンケート等から課題の抽出 設備改善計画の作成及び実行	5/5年目
	学生の意見・要望への対応	学生の意見・要望の収集と把握	学生の意見や要望について、複数の調査・アンケートによって、充分に収集、把握ができている	入学時、在学中、卒業時のアンケート調査の見直しと実施 意見・要望収集方法の再検討 特に満足度調査回答率の向上を図る	5/5年目
		学生の意見・要望の分析と対応	各種の調査やアンケートによって把握された学生の意見や要望について、分析が実施され、適切に対応できている	把握された学生の意見や要望の分析の実施 分析結果の活用と適切な対応	5/5年目
	退学者低減に向けた支援の充実	退学者の低減に向けた施策の推進	IRデータに基づき低減に向けた施策が推進され、退学者が3%未満となっている	データ解析に基づく修学面から困難になる学生に対する施策の立案と実施	5/5年目
カリキュラム・教育方法の改善・向上	3つのポリシーの継続的な検証と改善	学部・学科における3つのポリシーの検証と改善	毎年、各学部、各学科のミッションを含めた3つのポリシーの検証を行い、学修者本位の教育の質の向上を図るべく、教育課程の改善に努めている	学修者本位の教育体制を前提としたポリシーの全面的見直し ホームページへの開示（年度末）	5/5年目
			ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに則った適切な卒業判定・進級判定が実施されている	卒業判定・進級判定基準等の厳正な運用 学年暦に沿ったカリキュラムの円滑な運用 大学設置基準の改正にともなう、カリキュラム・学年暦など教育課程全般にわたる見直しと改善	5/5年目
	カリキュラム編成及び運用の改善・向上	カリキュラム編成及び運用の改善・向上	カリキュラムポリシーに即した体系的な教育課程が編成され、それに基づくナンバリングや履修系統図が作成される一方、それらを活用したシラバスの充実・強化等が図られている	卒業判定・進級判定基準等の厳正な運用 学年暦に沿ったカリキュラムの円滑な運用 大学設置基準の改正にともなう、カリキュラム・学年暦など教育課程全般にわたる見直しと改善	5/5年目
			組織的な計画の下、アクティブ・ラーニングやICT等が十分に活用され、教育方法の改善が不断になされている	教育方法の改善・改革の「日常化」の実現と更なる教育方法の改善の推進 アクティブ・ラーニングやICT活用の推進	5/5年目
	学修成果の点検・評価	3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価と学生への浸透	毎年度、3つのポリシーを踏まえた学修成果について点検・評価を実施している 学生自身が学修成果を実感・理解できるような方法・システムが構築されている	学修成果の点検・評価の実施 学修ポートフォリオシステムなどによる、学修成果のふりかえり方法の更なる改善と学生への浸透促進	5/5年目
教学マネジメント、教員・職員配置、研修	教学マネジメントの機能性の向上	適切な教学マネジメントの体制の再構築	学長がリーダーシップを適切に発揮し、全学点検・評価会議を着実に実施している	教学マネジメントの遂行に伴う機能性向上の検証	5/5年目
	教員の配置	教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置	大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置している	適切な採用ならびに昇任の手続きの遂行 大学設置基準の改正に伴う基幹教員に係る諸制度の整備	5/5年目
	教員・職員の職能開発・研修	FD（Faculty Development）をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施	「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」を踏まえたFD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っている	FD、その他教員研修の組織的な実施と見直し、特に、大学設置基準の改正内容に関わる理解の深化を図る	5/5年目
		資質・能力の向上に向けた研修の実施	教職員の資質・能力向上のための研修等を組織的に実施し、組織人としてSD（Staff Development）活動が活発になされている	事務職員向けの第IV期研修計画の実施 FD・SD活動推進委員会との連携の元、教職員合同研修の実施	5/5年目

大課題	基本施策	具体的施策	最終目標	2024年度事業計画	年数
研究支援		外部研究資金獲得への支援の充実	情報提供、資料作成支援体制を整備し、科研費その他の研究助成への応募者数が毎年増加している (応募者数：2020年比30%増)	(応募者数：前年比15%増)	5/5年目
	研究活動の推進・充実	学内のリソースを活かした共同研究の推進	研究内容の開示とマッチングが行われ、年間10件以上の学外の研究機関との共同研究が進行している	(学内外の研究担当者のマッチング件数：1件)	5/5年目
		研究環境の整備	年間5件以上のシンポジウムを開催し、社会へアカデミック情報の発信がなされている 研究計画書ならびにResearch map更新が100%なされ、教員の研究気運が高まっている	(シンポジウムの開催) (研究計画書の提出) (Research map更新)	5/5年目
	樟蔭美科学研究所の設立・運営	樟蔭美科学研究所の設立・運営	2020年度にスタートした研究所の円滑なる運営がなされ、研究成果を社会へ還元している 美に関する研究内容の開示とマッチング作業を行い、学内外の研究者・機関との共同研究が推進されている (美に関する研究テーマ3件、学会発表2件)	(学内専任教員：5名～10名) (外部研究者：3名～5名) (研究費：1千万円～3千万円規模) (研究テーマ：3件以上) (学会発表：2件)	5/5年目
内部質保証	内部質保証のための自己点検・評価の実施	定期的な自己点検・評価の実施	全学的な定期的点検・評価が毎年確実に実行されている	再構築された実行体制のもと、新たに組織される自己点検・評価委員会の円滑な稼働 2023年度の自己点検評価作業の実施	5/5年目
	教学IR体制の強化	IR体制の整備・充実	教学マネジメント体制が適切に機能している 各種情報の集約がなされ、教学マネジメント体制の改善・改革に必要なデータの開示と活用が進んでいる	教学マネジメントに関する研修会の実施、特に、大学設置基準の改正内容に関わる理解の深化を図る入試、学務、学生データの学内への開示促進	5/5年目
		IRデータの積極的活用	集約された各種情報やデータが積極的に活用されている	教学IR体制の円滑な運営によるデータ活用の更なる推進	5/5年目
グローバル化への対応	国際化に対応した教育体制の構築	内なる国際化に対応した語学教育の充実	内なる国際化にも対応した英語を中心とした語学教育が充実している	語学教育の充実 ・英語での授業展開 (各学科複数教科)	5/5年目
		海外研修（派遣）の強化	英語圏に限らず、留学希望する学生に対して支援が行われている	繰り返し検討内容の見直し	5/5年目
	国際化に対応した教育体制の構築	外国人学生の受入れ	全学生の約2%の外国人学生を受け入れている	国内日本語学校と連携 留学生市場の開拓・広報活動（教職員を海外へ派遣） 短中期留学の充実 日研生の受入れ 留学生のためのキャリアサポート充実 留学生別科設置準備	5/5年目
地域連携・産学官連携	地域連携	地域連携の活性と強化	地方自治体との協定による活動が前年度以上に活発に行われている 学生主体の地域連携プロジェクト等学生の地域における活動を積極的に支援している (プロジェクト数：5件)	地方自治体との協定による活動の活発化 学生主体の地域連携プロジェクト等学生の地域における活動の積極的支援 (プロジェクト数：5件)	5/5年目
		附属施設による地域貢献	カウンセリングセンター、くすのき健康栄養センター及び子育て絵本館等の地域貢献活動が活発になっている	カウンセリングセンター、くすのき健康栄養センター及びしょういん子育て絵本館等の地域貢献活動が活発化	5/5年目
	産学官連携	産学官連携の活性と強化	企業、地方自治体からの相談、受託研究受入の窓口を開設し、学内外の研究担当者とのマッチングによる連携実績がある (マッチング件数：年間10件以上)	・担当組織の整備 (学内外の研究担当者のマッチング件数：5件)	5/5年目

【高校・中学】

高校・中学では、「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた、社会に貢献できる女性の育成を目指し、そのために「一人一人の夢を育て、その実現を目指す女子校」「一人一人の思いを大切にす
る、面倒見の良い女子校」「一人一人の興味・関心を引き出し、能力を高めていく女子校」として、
日々、取り組んでいます。

大課題	基本施策	具体的施策	最終目標	2024年度事業計画	年数
樟蔭女子教育	「知・情・意」を兼ね備えたLittle Ladyの育成	生活指導を通した“Little Lady”の育成	生徒全員が、情操教育・マナーを身に付け思いやりの心を持っている	挨拶、言葉遣い、身嗜みなど、集団生活におけるマナーを学校生活のあらゆる場面において指導 確立した情報モラル教育の実施 確立した樟蔭レッスンの実施	5/5年目
		キャリア教育の実践	発達段階に応じたキャリア教育の実践	進路指導部によるキャリアホームルームの効果検証 興味・関心や能力・適性を理解し、将来について考えることができる段階的な取り組みの実践 年間キャリア教育プログラムの見直し	5/5年目
		人間力の育成	励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の実践	人権教育行事の実施 自治会指導部によるクラブ活動方針の実践 確立した樟蔭スタイルの実施	5/5年目
定員充足	生徒及び保護者の口コミによる広報効果の向上	満足度の向上	生徒・保護者の満足度が90%を超え、それが口コミで生徒募集に繋がっている	満足度調査の実施・結果の分析（調査検討PT） 分析結果をもとに不満点の改善（運営委員会） 生徒、保護者満足度調査の実施による満足度の把握（満足度：90%以上）	5/5年目
		塾・中学校への効果的な広報の実施	効果的な広報活動を行い、中学100名・高校310名の確保が出来ている	実施と見直し	5/5年目
		メディア企画室による広報活動の充実	効果的なメディアによる広報活動で中学100名・高校310名の確保が出来ている	メディア企画室による広報手段（マスコミ、WEB）の見直し 広報ツール（パンフ、チラシ等）の見直し	5/5年目
		新たな広報活動の実施	樟蔭イングリッシュアカデミーの実施	樟蔭イングリッシュアカデミー（SEA）から5名の児童が入学している SEAの実施と改善	5/5年目
		高校総合進学コースの特色の明確化	高校総合進学コースをSS（セルフスタディ）コースとする 高校総合進学コースをSSコースとして完成	高校全体に導入	4/4年目
教育力の向上（FD） 教員の資質の向上	授業力の向上 教員の研修の実施	授業力の向上	教員一人ひとりの授業力が向上している	各プロジェクトチームによる効果検証と見直し 授業アンケートの実施と結果の活用による授業の改善 研究授業の実施による授業内容・方法の相互チェックと改善（研究授業：各教科年間2回合計18回） 管理職による教員の授業力向上に向けた授業見学及び助言指導（授業見学：各教員年間1回） 電子黒板及びメディア教室を活用したICT教育の推進（全授業の80%以上） アクティブラーニングによる授業の充実（全授業の80%以上）	5/5年目
		教員の研修の実施	教員研修により意欲の向上と生徒・保護者への対応能力が向上している（教員研修：年3回、管理職による面談：年1回）	管理職による定期的な研修及び面談の実施 「到達目標システム」による目標設定と到達度のチェック	5/5年目
		補習等の制度の充実	生徒の学力が向上し、進路希望が100%実現している	補習授業の実施 フォローアップ講座（英・数）（通年週1回） 制度補習（国際・看護） 個別指導（高3約8名） AO入試対策講座（高3） （進路希望100%実現）	5/5年目
グローバル化への対応	グローバル教育の実践	グローバル教育の充実	グローバル化に対応できる生徒を育成している	i-loungeにおけるグローバル教育の充実を図る行事の見直し 英検（準1級2名、2級30名、準2級50名、3級200名） 英語弁論大会及び英語歌唱大会 国際交流（台湾・ニュージーランドとのSkype交流） 学内留学（心理学・児童英語教育） 外国人教員による英検講座 海外研修（台湾・ニュージーランド・イギリス）	5/5年目
サポート体制の充実	キャリアサポートクラスの運営の充実	キャリアサポートクラスの運営の充実	キャリアサポートクラスを4クラス編成とし、在籍する生徒がきめ細やかなサポートを受けている	4クラス編成の定着（CSクラスの在籍者数：90名）	5/5年目
	強化クラブの充実		強化クラブ（7クラブ）が近畿、全国大会に出場している	外部指導員の採用	5/5年目

大課題	基本施策	具体的施策	最終目標	2024年度事業計画	年数
ガバナンス の強化		業務の見直し	業務の見直しを行った結果、仕事が 厳選され働きやすい職場になっている	業務の見直しと課題解決のサイクルの定着	5/5年目
	中高組織の点検と見 直し	会議の活性化と時間短縮	議論中心の会議となり、会議時間が 短縮されている	会議の活性化と時間短縮の継続	5/5年目
		教員の授業持ち時間数の見直し	規程の持ち時間数となっている	前年度の取り組みの見直しと改善	5/5年目
	外部評価による組織 の改善	外部評価の結果の現場への取 り入れと履行	外部からの評価・意見を取り入れ、 評価結果をもとに改善できる環境が 整っている	前年度の評価結果の反映 年度末に外部評価委員会を実施	5/5年目
安心・安全 な環境の提 供	環境整備	トイレ及び教室等の改修	トイレの改修、机・椅子の入れ替え をし、教育環境が改善されている	改善計画をもとに、不備を改善	5/5年目
	災害対策	災害時の対応の改善	災害に備え避難訓練を実施し、災害 備蓄品が完備されている (中高生徒全員分×1日分)	避難訓練の実施(年1回) 生徒用災害備蓄品の完備 生徒用災害備蓄品の見直し	5/5年目

【附属幼稚園】

附属幼稚園では、「未来を生きるための根っこを育てる保育」を保育方針に、子ども達が主体的に取り組める保育、受け止めて伸ばす保育を目指します。保育内容・保育環境の充実、教員の資質向上・保護者との関係強化を行い、樟蔭幼稚園のあるべき教育について多方面から引き続き取り組んでいきます。

大課題	基本施策	具体的施策	最終目標	2024年度事業計画	年数
入園者の確保	教育の質向上	カリキュラムの充実	カリキュラムの見直しが行われ、保育内容が充実している	保育内容の検証と改善のサイクル定着	5/5年目
		職員間の共通理解	学期末（年3回）に全職員が次学期の保育内容について検討し、課題を共通理解し保育に努める	全職員が共通理解を図るためのミーティング実施 可視化した保育内容の更新	5/5年目
	職員の質の向上	研修の充実	定期的・体系的な園内研修を実施している（年3回）	現在の園内研修（アドバイザーを招いた保育研修）について、実施内容・時期の見直しと改善	5/5年目
		子育て支援の充実	長期休暇中の預かり保育の実施	盆、正月以外の預かり保育を実施している（日数：夏14日、冬7日、春14日）	検証と改善
		給食の増加	給食を週3回（現在は週2回）実施している	週3回の給食の実施	5/5年目
	商圏エリアの拡大	車送迎の実現	車通園者が日常的に車寄せを利用している	本格導入の検証と改善	5/5年目
	広報活動	ポスター貼り、広告配布、Web広告、ホームページの充実	広報媒体の範囲が拡大している	新しい広報媒体を含め、有効な広報媒体の活用・検討	5/5年目
	未就園児の確保	未就園児クラスの充実	保育時間の延長	降園時刻が13時になっている	検証と改善
広報、SNSの強化			園庭開放についての広報が活発に行われ、来場者数増加につながっている（来場者数：50人）	改善した広報の実行 引き続きアンケートを通して広報の効果の検証	5/5年目
園庭開放の充実		内容の充実	内容が充実し、来場者が満足している	実施時に行ったアンケートや、他園の取り組みを参考に、内容の検討、充実	5/5年目
		安心・安全の確保	環境整備	点検・修理・修繕	計画的に点検・修理・修繕を行い、安心・安全な保育環境を提供している
大学・高校との連携		健康栄養学科との連携	健康栄養学科から給食、おやつ等の監修・提供がされている	前年度の実施状況の検証と改善	5/5年目
		化粧ファッション学科との連携	化粧ファッション学科から手作り衣装・玩具等が提供されている	学科と連携して試行	5/5年目
	様々な学科等との連携	児童教育学科との連携	教育実習、ボランティア活動の場が提供できているとともに、共同研究、行事(子育てカレッジなど)参加が促進されている	児童教育学科との連携強化	5/5年目
		ELTC（組織変更後SILC）との連携	外国人教員が常駐している	前年度の実施状況の検証と改善	5/5年目
		児童教育コース（高校）との連携	保育・実習体験に協力し、行事の手伝い・参加を維持している	児童教育コースとの関係を維持する	5/5年目
地域との連携	地域交流の充実	幼稚園行事の地域開放	夕べの集い、焼き芋パーティー、野菜の収穫等を地域に開放している	改めて地域との交流のあり方を検討	5/5年目

【学園】

学校法人樟蔭学園では、今後も社会から必要とされる教育機関として生き残るため、状況の変化に対応し、教育の質の保証を担保するとともに、経営の効率化による持続的かつ安定した財政基盤を確立していきます。そのためにも、ガバナンス機能の強化、教育機能の強化、職員の能力向上、施設設備の充実等、積極的に取り組んでいきます。

大課題	基本施策	具体的施策	最終目標	2024年度事業計画	年数
建学の精神の浸透	建学の精神に基づく学園ブランディングの再構築	建学の精神とその現代的解釈の学内外への浸透策の検討・実施	建学の精神を現代的に解釈した「樟蔭美」のブランドが確立され、学内外に浸透している	外部からの評価等を確認し、2030年に向けて再度方向性の確認と学内の意思統一	5/5年目
中高大接続		各コースと学科の連携強化	高校の各コースと大学の各学科の連携を強化することにより、内部進学の特長が明確になっている	連携内容の見直しと改善	5/5年目
		教育プログラムの接続	高大教育連携部会において、特色ある高大一貫科目を設置し、魅力ある単位認定制度を構築している 初年次教育において、新たな教育プログラムを実施している	単位認定制度の見直しと改善 初年次教育の見直しと改善	5/5年目
	中高大の連携強化			・内部校への進学メリットの検証 ・新入試制度下での内部進学の魅力訴求 ・財務メリットの再設定 ・各行事の実施と内容の改善及び効果検証（中高全教員対象学部学科説明会、高3担任情報交換会、生徒対象進路説明会（CSクラス生への個別相談）、学科別説明会、大学授業体験、中高保護者対象説明会、リソースを活かした連携イベント、オープンキャンパス） （内部進学者数：70名）	5/5年目
経営・ガバナンス強化	理事会機能の強化	役員の職務及び責任の明確化	運営基盤が強化され、教育の質の向上及びその運営の透明性の確保が図られている	役員機能の強化（研修等の実施） ガバナンスコード点検を行い、ガバナンス・コードに沿った運営基盤の強化	5/5年目
	中期的な計画の策定	第Ⅲ期中長期計画アクションプランの実行	Shoin Vision 2030 第Ⅲ期中長期計画の目標が確実に達成されている	2024年度アクションプランの確実な実行と管理	5/5年目
	情報公開の充実	法人・教学部門双方の積極的な情報公開	法人・教学部門の情報が積極的に公開され運営の透明性の確保が図られている	積極的な公開による透明性の確保	5/5年目
働き方改革や、制度・運用の見直し	時間外労働の削減	業務負荷分析による適正な人員配置と適材配置	業務負荷分析により各部署に適正な人員と適材が配置されている 学園全体の残業時間が削減されている（残業時間数：2019年度と比較して15%削減）	業務負荷分析の見直し 人員と適材の配置の見直し	5/5年目
	同一労働同一賃金の導入	身分や業務に即した役割と待遇の明確化	身分毎・部門毎の役割が明確化され、その内容について労働者が理解し納得している	必要に応じて労働者へ説明	5/5年目
	規程の整備	規程体系と諸規定の見直し	明確に体系化した規程が周知できている	法令と本学園の現状の整合性を確認し、必要に応じ改正規程に定められているとおり履行されているか確認し、必要に応じ改正または制定 規程の内容について、実態と齟齬がないか確認し、整備	5/5年目
		手当や申請書の見直し	適切な手当が支給されている 適切な申請書が使用されている	古い規程や申請書が利用されないように周知	5/5年目
	危機管理対策の充実	危機管理マニュアルの見直しと危機管理体制の強化	十分な危機管理対策のもと、教職員が危機管理について理解し、有事に対応できる	見直しをした危機管理マニュアルに沿って有事に備える	5/5年目
人財の育成	学校職員としての資質向上	階層研修の見直し	求める能力に即した研修が実施されている	研修の実施状況の確認と検証	5/5年目
		OJT型（学内講師）研修の充実	学内において管理職、一般職が講師として研修が行われている	次年度OJT研修の立案と実施（講師：管理職・一般職）	5/5年目
寄付金募集	寄付金収入の確保	寄付に協力しやすい環境づくり	税金の優遇措置などを明記した効果的な趣意書を作成し、学園報発送時に同封している	趣意書や振込方法の効果検証 その他の協力しやすい環境づくりの検討もしくは実行	5/5年目
		寄付者データの整備	寄付者データベースの運用と活用がなされている	寄付者データベースの運用と活用（卒業生の名簿とマッチング）	5/5年目

大課題	基本施策	具体的施策	最終目標	2024年度事業計画	年数
知名度の向上	学園としての広報活動の強化	学内外への情報発信力の強化	プレスリリースでの情報発信を活発に行い、報道機関からの取材が増加し、マスコミとの連携が強化されている (プレスリリース：50件、報道機関からの取材：25件) SNS、広報誌等で教職員、卒業生、保護者への情報発信を行い、帰属意識が高まっている 各校の定員充足につながっている	検証と実行 (プレスリリース：40件、報道機関からの取材：25件)	5/5年目
		学園で一貫した戦略による広報活動の充実	費用対効果の高い駅看板、駅貼りを活用する等、学園で一貫した戦略による広報活動を実施している	広報活動の見直しと改善	5/5年目
樟蔭愛の顕在化	卒業生（同窓生含む）とのネットワークの強化	ホームカミングデーの企画・運営	毎年250名以上が参加している	企画・運営の検証・改善 (参加者数：250名以上)	5/5年目
		同窓会との連携及び相互協力関係の強化	同窓会と連携して卒業生向けのイベント等を行い、相互協力関係が強化されている	卒業生向けの講演会等のイベントの実施 学年会・クラス会等へのサポート体制の検証	5/5年目
		学園報「くすのき」の発行と卒業生向けのSNS「樟蔭ファミリー」の発信	学園報やSNSがさまざまな世代の卒業生と学園をつなぐツールとして運営されている	2023年度の検証をもとに、楽しみにしてもらえるツールへの改善 「樟蔭ファミリー」のInstagramの実施 「樟蔭ファミリー」のフェイスブックの実施	5/5年目
		卒業生のデータベースの構築と活用	卒業生名簿の管理業務を同窓会から学園側へ移管し、就職先等を含めた卒業生データベースが完成している	卒業生名簿の管理業務を同窓会から学園側へ移管の検討 結果に応じて、卒業生データを活用	5/5年目
歴史資料の管理	歴史資料の整理と保管	資料目録のデータベース化の構築と活用	資料目録がデータベース化され、研究や授業で歴史資料が活用されている	資料目録のデータベース化と、研究や授業での活用	5/5年目
安心・安全な教育環境の提供	環境整備	施設・設備の運営維持	施設・設備が機能・性能を継続して適切な状態に保持され、安全、快適、効果的に運用されている	施設・設備の環境を維持・保全するため、関係法令を遵守し、法定点検・定期点検を確実に実施・報告 施設・設備等5カ年計画を立案し、実施する修繕工事・改修工事の計画を推進 施設・設備の日常的な点検に基づき事前措置を行い、異常発生時には速やかに修繕を実施 設備中央監視システムで設備の稼働・消費状態を監視・制御し、効率的な設備運用管理を実施 事故・災害に対する事前の安全対策及び、被災後の復旧対応の実施	5/5年目
		施設の耐震化	対象施設の全てが耐震化され、耐震化率100%となっている	計画なし（完了）	—
		遊休不動産の活用	維持保全ができている施設は継続して有効活用、できていない施設は解体し不動産の有効活用がなされている	計画をもとに実行	5/5年目
安定した財務基盤の確立	収支バランスの改善	毎年度の提示予算の算出及び、実績比率による検証	収入に見合った支出を行うことにより収支改善が図られている (法人全体の構成比率/ 人件費比率：56,8% 教育研究経費比率：28,6% 管理経費比率：7,0% 他 経常収支差額比率：7,2%)	2022年度に予算提示方法を見直し、2023年度分から支出を構成比率ではなく、収入予測をみとうえて、前々年度実績を指標として予算提示を行うこととしたため、改正方法の妥当性や更なる問題点の見直し	5/5年目
		施設・設備等5か年計画の検証	第Ⅲ期中長期計画を踏まえた施設・設備等5か年計画を検証し、収支改善が図られている	目標達成状況に基づく施設・設備等5か年計画の検証と問題点の見直し	5/5年目
	遊休不動産の整理	遊休不動産の処分	適正な手順で売却又は譲渡先を決定、契約交渉及び契約締結し、引き渡しされている	計画をもとに実行	5/5年目